

文芸欄



俳句

宝愛句らぶ (中央区)

鈍色の空に轟く雪起こし
冬木立水辺の鳥はただ一羽
牡蠣鍋を囲む仲間に出る
ハイカーの賑はひ絶えて山眠る
クレイン船釣り上げたのは牡蠣筏
今生の別れ忍ばせ賀状書く
あつ飯に鱈の煮こごり溶けし朝
牡蠣の店女将の夢は海を越え
黄落や六甲おろし山眠る
梅の美会 (兵庫区)

和子 悦子 千枝子 道子 恵子 和志 哲男 啓臣 山口 茂子 栗野 富江 山田 朝子 藤井 歌子 馬場みつえ 前川 弘子 山本 恒雄

青葉クラブ (北区)

親の手を振り切り子らは雪を踏む
臘梅の薫れる庭や誰が住居
しわぶいて葛根湯服む気休めか
高原ささゆり会 (北区)
節分や鬼も仲間卒寿われ
空澄みて秋の勝山山燃ゆる
風花ゆく有明の衣纏われつ
山装うゴンドラ行く寒霞溪
冬ごもり等圧線の縞模様
ひまわり句会 (北区)
初日さす硯の海は平和なり
こぼれ種庭に広がる桜草
ひよどり台句会 (北区)
秋の夜長話す相手は亡き夫よ
手みやげの鯛焼きかかえ小走りに

てる子 南 久美子 松村二三枝 山下 久一 若林 節子 辻 寿賀子 石井 敏子 塩見 光子 筒井 豊子

日短か「お先に」言えずボランテイヤ
とりどりの色を野に置き秋深む
北斗句会 (北区)

窯出しの兎並べて年の暮
幣の鈴頭垂れ聞く七五三
句敵を忍ぶ一句や初時雨
波郷忌や句を語り合う友の逝く
小康を得しとの便り秋晴るる
孫文の墨書やはらか冬灯
ビル街を包む讚美歌降誕祭
路地奥に残る板塀花八ツ手
スキップもなさぬ振袖七五三
串本の水天一碧石路の花
見山台新樹会 (北区)

昔どさり今はパラリの年賀状
老友の生きてる証年賀状
雪催い高速バスの客6人
えーいひと一つそーれ掛声除夜の鐘
賀状数枚アップデートの聞き手は右
住み慣れし街又1年歳明けける
スタッドレス妻に逆らい雪を待つ
福寿草句会 (須磨区)

裸婦像に真赤なケープ冬来る
ランナーの熱気で飛ばす時雨雲
身にしむや戦力外の記事小さき
多聞台ときわ会文芸部 (垂水区)
霜の朝布団乾かす庭光る
霜の朝息の白さに目覚めたり
初霜や日射しの合い間光りあり
霜の朝外出の猫が駆け戻り
霜焼けが弟の耳赤く染め
日輪のまぶしき朝や霜の庭
月が丘むつみ会 (西区)

青天や夕日に映える紅葉樹
お開きで襟たて帰路に寒月や
◆個人
初夢は北斎の富士鷹茄子

中井 光子 矢谷登美子

脇坂有多子 松本 洋子 岸下 庄二 藤井久美子 金行 隆 久松 礼子 黒田 久江 秋山 弘之 川原 正 増田 嗣夫

丸尾 嘉子 藤田 和夫 佐溝満喜子 高石 勝行 貞永 弘子 石本 宏一 吉田 勲 林 慎一 上原 綾子 松下修二郎

中村佳代子 大畑留理子 久下 順司 山本雄二郎 樋山 隆夫 木村 敏博 藤森 勝子 川上 富範 福井 悦子

イエスともノーとも言えず懐手
夫や子に会へる菩提寺初詣
万両の色濃くなりて庭の隅
割烹着つけたるよりの師走妻
頼久寺枯山水に冬紅葉
立冬を過ぎて淋しき茜雲
福は内卒寿の豆は食いかね
爽かぜと旅する芒きどこまでも
兎飼ふ朝の新聞読みもする
ぽっかりとひとり歩きの散歩道
冬の苔樹木の幹や薄化粧
紅葉がり老人会やバス十五台

桂木ひふみ会 (北区)
来生を信じ数多の悪は置き土産
感涙す勝ると信じドイツ戦
百歳までも生きた親です我もまた
僕は行く真実一路来生も
筑栄会 (北区)
リース作りグルーガンで飾りつけ
疎開先ウサギを追いしときの声
初恋の人が出る夢内緒だよ
錦秋を求めてぶらり歩こうか
朝ドラの明日へつづきにトキメキを

桃山台クラブ文芸部 (垂水区)
初詣賽銭はすみ福願う
古希も末八十路もう其処令和の世
◆個人
眼ぞうだそれでも年越ソバを作る母
ミンチにトロミ料理我が味方なり
数独の埋めず進まず夜ふける
コロナ禍は友との電話生きがいぞ
論吉去りしふさわ来るもご円なし
スターバックス飲み方知らず見暮らす
干柿の障子の影にいやされて

山上 幸子 竹村 良子 山田キミ子 高橋 純子 福本 和恵 大上 昭敏 藤田 恵子 北野 公昭 小幡美沙子 芝田 律子 寺岡 洋子 濱頭ミノル

京念久美子 笹岡 淑子 杉尾 悦子 大和ケント 三 茶 かほう あきら まり子 まさこ

田畑美恵子 小高 肇 早川キミエ 増田 芳之 都倉 知子 かんいち 北野 利一 宮内美栄子 藤長 文子

上田 節子 水口 敏子 大賀 清子 江口 啓子 箱守喜久子 眞木香代子 増田 當代 松浦 妙子 水澤 清 吉野 洋子

短歌

花山短歌会 (北区)

左手を右手でマッサージしつっ思う今日の私の心を正す
土筆摘みハカマをとりて調理して春のよろこび友らにわけむ
ゆきやなぎ眞白き花の庭にゆれ風のかたちに枝のふくらむ
雨降りて歩きに行けず家の中ぐるぐる回り歩いたつもり
君からの思いもかけぬ贈り物朝の太極拳プレスレット光る
リフォームせむ古き着物に袖通ししみじみ思う若き我が日を

船崎めり子

山田加壽代

古林 保子

磯元カヨ子

清水 恵子

木下いく子

◆個人

くり返す季節の移ろい哀しくもさあ新たな年を生きよう
凜とした冷たき朝の山仰ぎ空新しく輝けるなり
木枯らしに吹き落とされたかりんの実まねのできないジャム茜色
冬空に白煙棚引く火葬場人の命の儚さ思ふ
くるくると落葉のダンス風の歌とまった心共に躍りて
終活はしないでおいてと子は眞顔目を通して老母の人生
風が呼び雨戸が答へる言問ひか夜ながの寒波朝までつづく
ティーカップに具材を「ふり出し」湯をそそぎレンジで「二分朝のみそ汁
岩岡で初めて姫路中学校卒業祖父を誇りに想う
紀州路へ恵方三社の初詣老人会の絆深めて

「とっておきの作品」募集

会員の皆さまから、絵はがき&色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せ下さい。

必要事項

- ①氏名(ふりがな) ②クラブ名 ③題名 ④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号

※葉書サイズ(100mm×148mm以内)・色紙サイズ(242mm×272mm以内)をお願いします。それ以外は受付出来ません。

※作品は随時ご返却いたしますが、長期間お預かりする場合がありますのでご了承ください。

※作品は丁寧に扱いますが、損傷については理由のいかんにかかわらず、一切の責任は負いません。

宛先 〒650-0016 神戸市中央区橋通 3-4-1

KOBEシニアクラブ

「とっておきの作品」係

とっておきの作品

【中央区】二宮新栄クラブ あさとし



サンコウチヨウ



ハチドリと花

あとがき

今号も、広報紙「KOBEシニアクラブ」をお読みいただきありがとうございます！

3月に入り少しずつ気温も高くなって過ごしやすい日々になってきました。春が来たという感じですね。さて3月は、旧暦では「弥生」と呼ばれます。

「弥生」とは、いよいよ草木が生い茂るという意味だそうです。まさしく新緑が深まっていく時期に当たります。

市老連の活動も深まってくるそんな新年度にしたいものです。